

ワクワク はこね温泉 第 6 回 「宮ノ下温泉」

菊川 城司 (神奈川県温泉地学研究所)

はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズで紹介する 6 回目です。今回は、箱根二十湯のうち、宮ノ下温泉のおはなしです。

宮ノ下温泉は、国道 1 号線と国道 138 号線の分岐点にあり、箱根の交通の要所にあたります。古くは、江戸時代に箱根七湯の一つにも数えられた温泉場です。(図 1、写真 1、4)

宮ノ下温泉の歴史

宮ノ下温泉は、温泉とゆかりの深い熊野神社の下にひらけた温泉場なので「みやのした」と呼ばれています(写真 2)。熊野神社は、自然信仰の聖地である紀伊国熊野に成立した熊野三山の祭神を祭った神社ですが、「熊野(くまの)」を音読みすると、熊が“ゆ”、野が“や”なので、ここから「湯屋(ゆや)」と読み替えて温泉の神様として祭ったといわれています。

宮ノ下温泉は、室町時代の 1398 (応永 5) 年に発見されたと伝えられています。江戸時代に編纂された「箱根七湯の枝折」には、当時、奈良屋、藤屋、伊勢屋、三河屋、山田屋の 5 件の宿場があり、内湯のほかに滝湯(いわゆる打たせ湯)が行われていたと記載されています。また、温泉の感覚は「温湯にして味気しほはゆし」と書かれています。「しほはゆし」とは漢字では「鹹い」と書き、塩辛いという意味の言葉です。

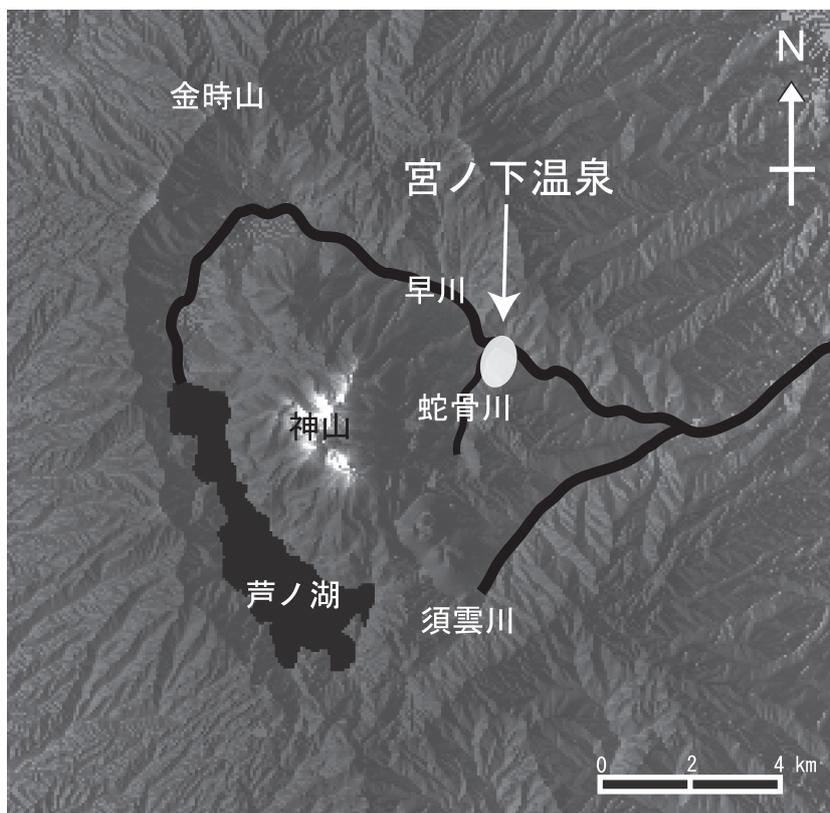


図 1 宮ノ下温泉の位置。箱根カルデラの北東側、早川と蛇骨川に挟まれた台地に拓けています。

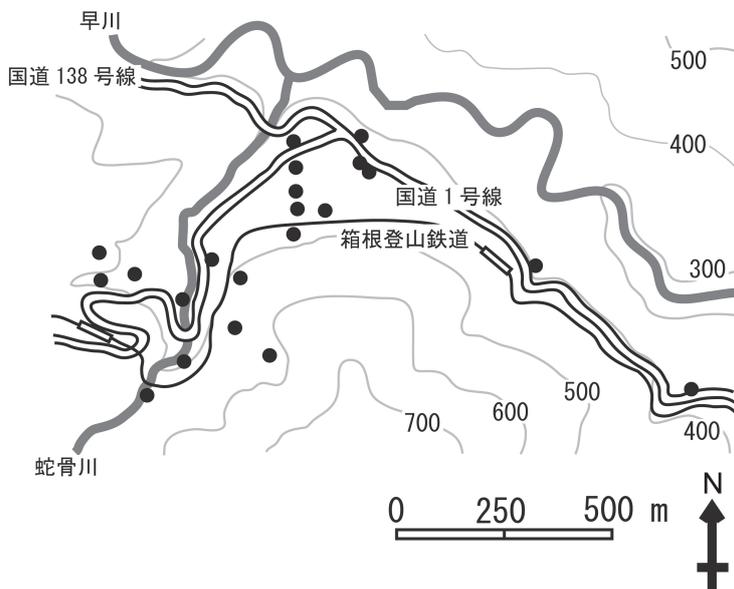


図 2 宮ノ下温泉の源泉分布。2008(平成 20)年現在。



写真1 南側上空から空撮した宮ノ下温泉。中央やや下側には旧温泉小学校（現在は温泉幼稚園）の建物が見えます。



写真2 熊野神社。神社の下に宮ノ下の中心街が拓けています。



写真3 富士屋ホテルと周辺の建物。古き良き時代の建物が残っています。



写真4 国道1号線（富士屋ホテル前）。多くの車が行き交います。

「箱根七湯の枝折」では、湯本が「冷湯、気味なし」、塔之沢が「温湯、気味かろし」とあることから、宮ノ下温泉は、温度が塔之沢と同じ程度で、味は湯本、塔之沢よりも塩辛かったことがわかります。さらに、温泉の効験（効能）は「頭痛、痲痺、腰痛、脚気、積聚、中風、疝気、風毒、すぢけ、喘息、眩暈、血塊、打身、痔漏、くぢき、帯下」と記されていました。

1886（明治19）年に発行された「日本鉱泉誌」には、当時の宮ノ下

温泉には4つの湧泉がありナトリウム-塩化物泉が湧出していたと書かれています。その後、1930（昭和5）年には、宮ノ下温泉で最初の温泉掘削工事が始まり、1933（昭和8）年に竣工し、これをきっかけとして、宮ノ下温泉でも掘削された井戸による温泉の利用が盛んになりました。

湯本から宮ノ下へ登るには、明治時代初期までは徒歩か馬、駕籠に頼るしかありませんでした。1887（明

治20）年、富士屋ホテルの創業者である山口仙之助は、集客のために、塔之沢宮ノ下間に人力車の通れる有料の道路を完成しました。以降、温泉場を結ぶ新道の開削工事が次々と進められ、箱根の温泉場が発展していきました。

宮ノ下地区にあった箱根町立温泉小学校は、全国でも珍しい温泉のある小学校で、近隣の源泉から供給された温泉に児童が入浴するカリキュラムがありましたが、残念ながら

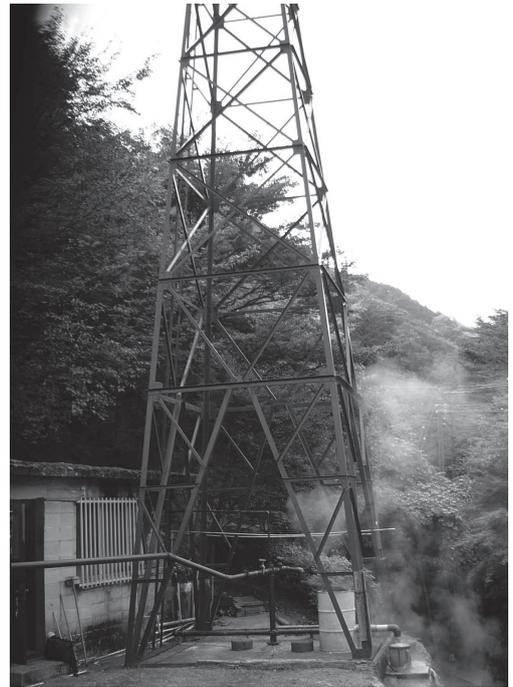


写真 5-1 及び 2 宮ノ下温泉の源泉。遠方には中央火口丘の山々が見えています。



写真 6 宮ノ下温泉での温泉分析の様子。温泉水の pH と電気伝導率を測定しています。

表 1 宮ノ下温泉の平均値。2007(平成 19)～2008(平成 20)年の調査による 18 源泉の平均値です。

項目	平均値
温度 (°C)	58.3
揚湯量 (L/min)	98.
pH	8.2
電気伝導率 ($\mu\text{S}/\text{cm}$)	1662.
ナトリウムイオン (mg/L)	296.
カルシウムイオン (mg/L)	29.2
塩化物イオン (mg/L)	456.
硫酸イオン (mg/L)	54.1
炭酸水素イオン (mg/L)	96.5
マケイ酸 (mg/L)	125.
マホウ酸 (mg/L)	22.4
成分総計 (mg/L)	1106.

2008(平成 20)年 3 月に廃校となっ
てしまいました。

宮ノ下温泉の現状

宮ノ下温泉は、蛇骨川と早川の深い
渓谷に挟まれた台地の上に位置し
ています (写真 1)。

宮ノ下は、箱根の山間部に向かう

車が数多く通過するため、国道の交
通量が非常に多く、残念ながら閑静
な温泉場ではありませんが、和風三
層の建物で宮ノ下のシンボルとなっ
ている富士屋ホテルの周辺には、古
風な店構えのお土産屋などが建ち並
び、明治時代から昭和時代の息吹を
感じることができます (写真 3、4)。

また、明治時代に日本のガイドブッ
クの草分的旅行案内書を編集したバ
ジル・ホール・チェンバレンや、世
界的な喜劇王チャールズ・スペン
サー・チャップリンといった宮ノ下
温泉に縁のある方の名前を冠した散
策路が整備されており、底倉温泉や
堂ヶ島温泉方面への散策ができます。

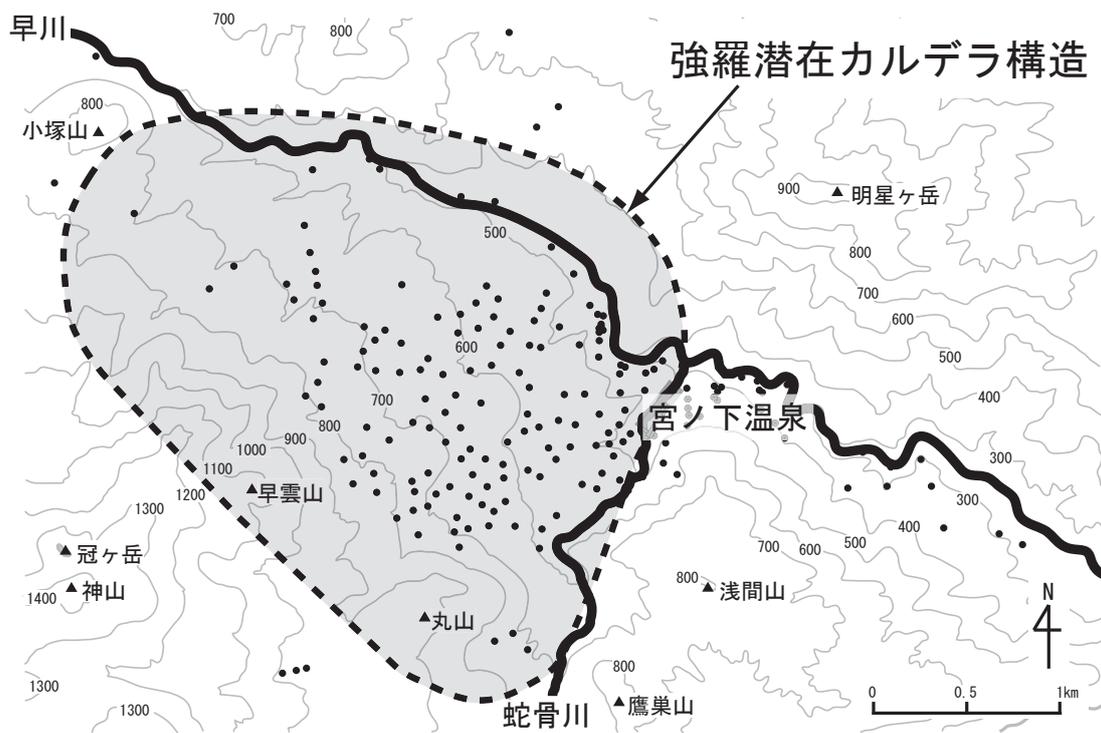


図3 強羅潜在カルデラ構造の位置。●は源泉の位置を表す。

毎年お正月に開催される東京箱根間往復大学駅伝競走(いわゆる箱根駅伝)の際には、観光協会や自治会が協力してイベントを開催し、通過する全ての選手に応援を送っています。

2012(平成24)年3月末現在、箱根温泉の源泉は全部で353ヶ所ですが、宮ノ下温泉にはその約6%にあたる21源泉があります(図2)。2007(平成19)～2008(平成20)年に宮ノ下温泉の18源泉で行われた調査結果をみると、温度は31.9～86.4℃の範囲、揚湯量(湧泉は湧出量)は1分間に9～306リットルの範囲でした(表1、写真5、6)。

宮ノ下温泉の泉質

宮ノ下温泉でみられる泉質は、ナトリウム-塩化物泉と単純温泉の2種類です。温泉に溶けている成分としてはナトリウムイオン、塩化物イ

オンが多いのが特徴です。このナトリウムイオンと塩化物イオンは、小涌谷のあたりで地下から上昇してくる熱水がもとになっていると考えられています。

宮ノ下温泉や底倉温泉は、小涌谷温泉と温泉のでき方に関して関係が深く、同じ系列の温泉であるといえます。これらの温泉場は、強羅潜在カルデラ構造の東側の縁に沿って並んでいます。強羅潜在カルデラ構造とは、北側の縁が宮城野、西側の縁が小塚山、東側の縁が蛇骨川であると推定される直径2～3kmの陥没構造で、8～6万年前の火山活動によって形成されたと考えられています。つまり、箱根火山の大きなカルデラの内側にあり、地表では形がはっきりとは見えない小さなカルデラ構造であるといえます。最新の研究結果によると、強羅潜在カルデラ

構造は、この付近の温泉のでき方と深い関係があると考えられていますので、ぜひ覚えておいて下さい。

宮ノ下の温泉は、強羅潜在カルデラ構造の小涌谷付近に湧出する高温で高塩濃度の温泉源から派生してできていると考えられています。標高の高い蛇骨川上流側から標高の低い早川合流地点に近くなるにしたがって、温度が低くなり成分濃度が低くなる傾向があり、これは小涌谷から早川に向かって温泉の流動があるためと考えられます。

今回は、宮ノ下温泉について簡単に紹介しました。次回は、底倉温泉について紹介します。お楽しみに。